

2020年度に小学校で必修化されるプログラミング教育。不足するIT（情報技術）人材の裾野を広げるための取り組みだが、従来の初等教育の世界では全くの異分野だ。早くからプログラミング教育に注力してきた大阪電気通信大は小学生向けのプログラミングドリルを著作・監修した。

### 小学生向けプログラミングドリル — 大阪電気通信大

## 思考方法 実生活例に体得



初めての小学生でも楽しめる内容にした

兼宗教授は「手を動かすことばかりに頭がいつてしまいがちだが、プログラミングならではの思考方法を身につけることが重要」と説明する。プログラムを書く際に最も大事なものは、正確で順序だった指示だ。本書の中でも小学生の実生活からイメージできるよう、「ごはんを食べてから歯磨き」といった具体例が示されている。

「ドリルを解いた後に実際に手を動かしてもらおう流れを意識した」と兼宗教授。大学の講義や政府のプログラミング教育に関する有識者会議の委員を務めてきた経験を基に、小学生向けに内容をわかりやすくかみ砕いた。シールやクイズ、キャラクターなどの要素を多用して初めての子供が取り組みやすい内容に仕上げた。

ドリル学習で効果的なのかとの違和感もある。兼宗教授は「手を動かすことばかりに頭がいつてしまいがちだが、プログラミングならではの思考方法を身につけることが重要」と説明する。プログラムを書く際に最も大事なものは、正確で順序だった指示だ。本書の中でも小学生の実生活からイメージできるよう、「ごはんを食べてから歯磨き」といった具体例が示されている。

兼宗教授は「日本でもソフトウェア開発の分野でトップレベルの人材を輩出しないとけない。まずは裾野を広げるために楽しんでもらいたい」と期待を込める。